核兵器禁止条約（TPNW）への日本政府の署名と批准を！

批准を求める意見書提出」の請願・議決の状況

9市議会		
2018年	6月	寒河江市、南陽市、山形市
	9月	新庄市、天童市、酒田市
2019年	6月	米沢市
2021年	6月	上山市
	9月	長井市
13町議会		
2918年	6月	河北町、西川町
	9月	真室川町、大石田町、金山町、最上町、舟形町
2019年	6月	三川町、庄内町
2020年	9月	山辺町
2021年	9月	小国町、飯豊町
	12月	白鷹町
3村議会		
2018年	9月	大蔵村、鮭川村
2019年	3月	戸沢村

2026年6月 尾花沢市
賛成
非自民3+国民党1+共産1
自民2+公明1 ＝8
反対 自民5

2026年6月 高畠町
全会一致

6月議会 否決7
村山・東根
鶴岡・大江
朝日・中山
川西
(5:5同数・議長反対)

核兵器は、無差別に多数の人命を奪い、長期にわたり放射線被害をもたらす非人道的な兵器である。

2017年、国連で『核兵器禁止条約（TPNW）』が採択され2021年に発効。本条約は、核兵器の開発、保有、使用及びその威嚇を包括的に禁止した。

現在、99の国と地域が署名し、74の国と地域が批准している。

しかし、日本は、世界で唯一の戦争被爆国でありながら、未だに本条約に署名・批准していない。核兵器の惨禍を経験した国として、核兵器廃絶に向け先頭に立つべき歴史的・道義的責任がある。

山形県では、これまで ~~26~~ 27 → 36の内75% の市町村が『核兵器禁止条約（TPNW）』への日本政府の署名と批准を求め意見書を提出している。

あなたの自治体は・・・・

＊世界から核兵器なくす県民の会（9条改憲No！県民の会・事務局　県平和センター）6月議会に
「核禁条約批准請願」

自民議員の「意見書提出に反対」

①「**核の傘、日米安保条約で日本の平和**が守られている」
だが、イラン戦争で、在日米軍基地から米軍出動、
1万km離れているから、日本にドローン反撃がこないだけ。
湾岸諸国の米軍基地だけでなく、民間のインフラにまで反撃されてる。
「**日米安保軍事同盟**」は、**もはやリスクでしかない**

② **外交・安全保障は国の仕事。地方議会が口出しすべきでない**

赤旗潮流

ぼろぼろに破れたワンピース、中身が黒焦げの弁当箱、さびついた三輪車…。一つ一つの遺品や写真に息をのみ、食い入るように説明を読む人びと。そこにある無念を感じながら▼8月の広島平和記念資料館＝原爆資料館には大勢の人々が詰めかけていました。とくに外国人の入館者が目立ち、その数は年々増え続けています。市は円安とともに混迷する世界情勢が背景にあるとみています▼昨年、開館70年を迎えました。3度目の大幅改修となった現在の展示は、「人への被害」を基本にすえて、被爆資料が語る声なき声と静かに対話できる空間に▼一人ひとりの生きた証しとの対話。そこには、原爆投下の翌日から石や瓦、ガレキなどを焦土から集めた初代館長、長岡省吾さんの執念がありました。その貴重な収集と調査が資料館の礎となっています▼被爆の実相をどう伝えるか。長岡さんからつないできた14代に及ぶ歴代館長。いま、その思いを描いたドキュメンタリー映画「原爆資料館」が各地で上映されています。資料館の歴史を描くことで、根底に流れる平和への思いも伝えたいと▼展示改修に携わり『広島平和記念資料館は問いかける』の著者でもある志賀賢治元館長は「ヒロシマの死者を記憶するための施設」だといいます。そして、ここにあるのは人間の叫びなんだと。その思いは、館内に置かれた対話ノートにさまざまな言語でつづられた、世界平和への願いに通じています。

〈26・8・4〉

鶴岡まちキ8/5～　フォーラム山形8/28～